

報道関係者 各位

**サケプロテオグリカンの骨粗鬆症予防に関する特許権
「骨密度増加剤、破骨細胞活性抑制剤及び骨リモデリング改善剤(特許 6265335号)」
の取得について**

弘前大学(教育学部ならびに保健学研究科)ではサケプロテオグリカンの機能性食品としての応用化をはかるため、骨粗鬆症予防に関する研究を実施しておりましたが、この度、研究成果として加藤 陽治(教育学部 特任教授)と野坂 大喜(保健学研究科 講師)が特許権「骨密度増加剤、破骨細胞活性抑制剤及び骨リモデリング改善剤(特許 6265335号)」を取得致しました。

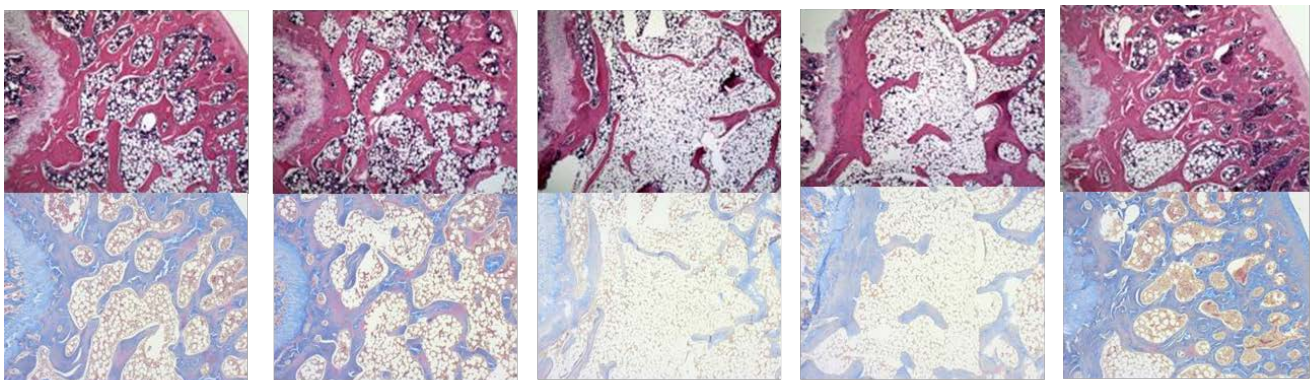
また本研究成果を 4th Scientific Meeting of the Asian Federation of Osteoporosis(マカオ)において発表致しましたので報告させていただきます。

(特許概要)

骨粗鬆症は「低骨量と骨組織の微細構造の異常を特徴とし、骨の脆弱性が増大し骨折の危険性が増大する疾患である」と定義され、国内には1300万人の患者がいると推定されています。骨粗鬆症による骨強度の低下は骨密度の低下または骨質の劣化が原因です。骨粗鬆症の治療においては、食事療法、運動療法、薬物療法が併用されますが、食事療法として用いられるカルシウム製剤においてはわずかな骨密度改善を認めるに過ぎないとされているほか、骨質の劣化を予防・改善する方法は確立されていないのが現状です。

このような背景から、新たな食事療法を確立すべく、骨粗鬆症モデル動物を対象としてサケ頭部軟骨プロテオグリカンの骨粗鬆症への経口摂取効果について検討を行ったところ、骨のリモデリング(骨の破壊と生成のサイクル)が抑制され、濃度依存的に骨梁が維持され、骨質の劣化が抑制されていることが明らかとなりました(下図)。

このことから、サケ頭部軟骨プロテオグリカンには骨粗鬆症予防効果があり、骨粗鬆症予防に向けた食事療法での活用が期待されます。



10%サケPG

5%サケPG

無Ca食

閉経モデル

健常

【本件問合せ先】

弘前大学保健学研究科

事務長 三上 豊

TEL:0172-39-5902